



わからないことは本人に聞くのが一番です。

作者の声を聞こう！

日南町美術館の「昭和100周年記念 わたしの情景 昭和の情景を紡ぐ 創作人形とペーパーアートの世界」へ出かけました。昭和の風景はリアルな表情や細部まで精緻に表現され、作者の創作人形を風景の中に置くと本物と見間違えるほどです。



悔しさが伝わる表情

その日は作者である南部町出身の人形作家、安部朱美さんのギャラリートークが企画されていました。作者の作品に込めた思いを聞くと作品が全く違って見えてきます。作者本人の話聞いてみないと作品に込めた本当の思いは分かりません。作者の伝えたかったことを推測するのも大切ですが、作者の本当の思いを知ること大切だと改めて感じました。



ケンカを叱る近所のおばさん

ギャラリートークは安部さんにも気づきがありました。円卓を囲んだ家族の食事風景を見た小学生がこう言ったそうです。「あー、これが団らんなのか。」また、学校帰りにケンカする小学生の作品を見て「あんなケンカをしてみたかった。」ともつぶやいたそうです。現代では生活が個別化



コミュニケーションのある食事風景

している家庭状況も見られます。いろいろなことが禁止され、他人に声をかけることはばかれる時代です。昭和の時代に生まれ育った者にはよく見た光景ですが、人と人がふれあえた時代を令和の子どもたちは羨ましく感じたのでしょうか。



顔や手のしわもリアル

精巧な作品はものづくりに携わる人には共感できるものです。また、ほぼ完成していても納得のいかないところがあるとやり直すという作者の感覚は、ものづくりのプロに共通した意識だと感じました。入場券を購入すると期間中は何度でも入場できます。ものづくりを学ぶみなさんには、ギャラリートークで作者の思いを聴き、作品をとおした作者の表現を鑑賞して欲しいと思います。

ギャラリートークの日程

創作人形作家	安部朱美氏	6月7日(土)、22日(日)	10:30~
ペーパーアーティスト	太田隆司氏	6月22日(日)	14:00~
	校長 松川 明義		

【行事予定】

- 2日(月)：鳥取県建設分野担い手確保事業 (K3土木コース)
- 3日(火)：鳥取県建設分野担い手確保事業 (K1)
- 5日(木)：保護者対象進路説明会
- 週末の大会 ボート部

